

新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業中における 学びを止めないための本校の取組

～学校ホームページを活用した動画等の配信を通して～

遠藤 亮一*, 八木 俊信*, 齊藤 努**, 鎌田 かおり*
草刈 由香*, 今野 智之***, 村越 郁哉*, 板橋 努*

Strategies Implemented to Maintain Quality Education
during School Closures due to the COVID-19 Pandemic
Distribution of Online Videos via School Homepage

Ryoichi ENDO, Toshinobu YAGI, Tsutomu SAITO, Kaori KAMATA
Yuka KUSAKARI, Tomoyuki KONNO, Fumiya MURAKOSHI, Tsutomu ITABASHI

要旨: 新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業期間に、知的障害特別支援学校である本校が学びを止めないためにどのように取り組んだかについて報告するものである。ICT機器が十分整っていない家庭や操作に不安をかかえる児童生徒、保護者にとっても、アクセスしやすい学校ホームページをプラットフォームとし、生活動作の動画や学習につながるリンク集を紹介した。

キーワード: 学びを止めない、臨時休業中の取組、動画配信、学校ホームページ、特別支援学校

1 はじめに

本校は、新型コロナウイルス感染症拡大による国の緊急事態宣言により、令和2年2月末より臨時休業となった。当初は、県内での感染者は多くなく、1カ月程度の休業かと思込んでいたが、日に日に感染者が増え、6月7日まで延長となった。今回、約3カ月の間の知的障害のある児童生徒の学びをどのように保障するかについて考え、実践したことについて報告する。

2 取組を行うに当たって

新型コロナウイルス感染症による臨時休業期間の初期は未知なるウイルスだったため、担任が児童生徒の自宅に訪問することも難しい状況であった。そのため、家庭へは電話で連絡を取り、児童生徒の様子や家庭環境の状況、どのような学習支援があるとよいかについて聞き、その内容を踏まえ、学校でできることを検討した。

学習支援等についての家庭への聞き取り内容を

まとめると、

- ・学習プリントを用意してほしい。
- ・運動不足が心配である。
- ・学校で学んだことや身に付けたことを忘れてしまわないか心配である。
- ・新型コロナウイルス感染症について子供が理解していないようだ。
- ・時間を持て余し、余暇をうまく過ごせずにいる。
- ・入学前で学校のことや先生のことから不安である。

であった。

また、家庭の情報通信機器の整備状況についても聞き取りを行ったところ、おおむねWi-Fi等の大容量の情報通信を行える環境が整っている。しかし、タブレット端末等のオンライン授業に適したICT機器がそろっていない家庭、兄弟がオンライン授業で利用するために自由に利用することができない家庭、たとえ機器が

*宮城教育大学特別支援学校, **富谷市立富谷小学校, ***宮城県立小松島支援学校

あったとしても、子供一人でパスワードの入力等、操作は難しいため、保護者がいないと情報機器を利用できない家庭があることが分かった。

以上のことから、本校の児童生徒へ臨時休業中に行える学習支援の在り方を検討した結果、児童生徒が学校で取り組んでいており、慣れている学習プリントを定期的に郵送する方法での家庭学習支援を行うとともに、

- ・働いている保護者が在宅のときに、児童生徒と一緒に利用できるよう、オンデマンドで利用できるデジタル教材の提供。
- ・もっと学びたいというニーズに応えるために、インターネット上にある教育コンテンツの紹介。

を臨時休業中の家庭学習支援の柱とすることにした。

なお、個人情報保護の観点から、デジタル教材等については、本校ホームページでID、パスワードが設定できる「本校保護者用」ページをプラットホームとし、配信することにした。

3 小学部の取組

(1) 日常生活動作について動画配信

〔ねらい〕

- ・臨時休業中も規則正しい生活が送れるようにする。
- ・コロナ禍の生活に必要な動作を知る。
- ・臨時休業明けにスムーズに学校生活をスタートできるようにする。

〔取組〕

歯の磨き方や手の洗い方、顔の洗い方や衣服のたたみ方、トイレトーパーの巻き取り方など、学校生活や家庭生活に必要な日常生活動作について、教師が実際に示範しながらポイントを説明した(図1)。ポイントを説明する際は、短く、簡潔な言葉で行うよう

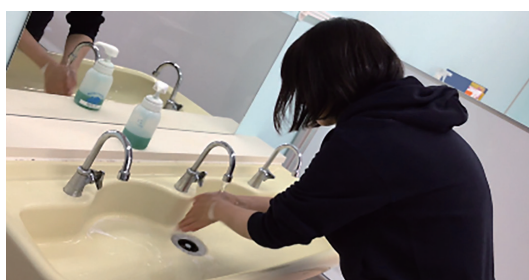


図1 手洗い指導動画

にし、児童が理解しやすくした。また、早寝早起きといった望ましい生活習慣についても意識を高めることができるように、動画を作成した。

〔成果〕

家庭で何度も動画を見て、ポイントを口ずさみながら手洗いや歯みがきなどの練習をする児童の様子が保護者から報告された。手洗いの仕方など、学校が再開された際にスムーズに行うことができる児童の姿が見られた。学校と家庭における日常生活動作の指導について、同じ手順で、共通の手立てで取り組むための一助となった。

(2) 体育的活動についての動画配信

〔ねらい〕

- ・コロナ禍における運動不足を解消する。
- ・学校での取組を思い起こす。

〔取組〕

小学部教員で、授業で行っていた準備体操や運動の動画配信を行った(図2)。準備運動では、アキレス腱伸ばしやジャンプ、首のストレッチや背伸びなど、ポイントの解説を行いながら示範した。運動の紹介では、スクワットや腕立て保持、手押し車やアヒル歩き等の解説を行った。

〔成果〕

動画を見ながら体を動かす児童の様子が、保護者から報告された。保護者と一緒に楽しみながら体を動かすきっかけ作りとなった。

(3) 音楽的活動についての動画配信

〔ねらい〕

- ・学校での取組を思い起こす。
- ・家庭で、音楽的な活動を楽しむ。

〔取組〕

小学部の教員で、授業で取り組んでいたリズム打ち

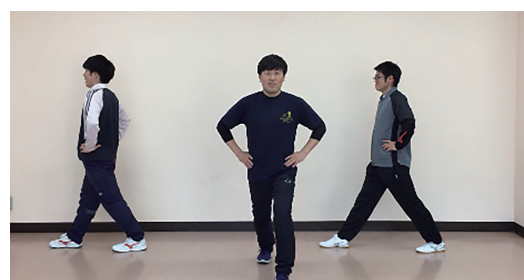


図2 ストレッチ動画

や身体表現の動画配信を行った(図3, 4)。児童が家庭で楽しめるように、画面の向こうの児童に呼び掛けたり、活動のポイントを話したりしながら行った。

〔成果〕

動画を楽しそうに何度も見たり、一緒にリズム打ちや身体表現をしたりする児童の様子が、保護者から報告された。動画を見ながら教師の名前を呼んでうれしそうな表情を浮かべる児童もいた。

(4) 劇の動画配信

〔ねらい〕

- ・家庭で、簡単な劇を鑑賞し、楽しむ。
- ・学校での取組を思い起こす。

〔取組〕

小学部教員が実演した「大きなかぶ」の劇の動画配信を行った。小道具や衣装などを準備し、児童が楽しく劇を鑑賞できるように工夫した(図5)。

〔成果〕

動画を楽しく鑑賞する児童の様子が保護者から報告された。臨時休業中何度も鑑賞する様子が見られた児童もいた。演じる教師の名前を呼びながら鑑賞する児童もいて、学校での生活を思い起こす一助となった。

4 中学部の取組

(1) 農作業についての動画配信

〔ねらい〕

- ・全身を使って働くことの厳しさと作物を育てることの喜びを通して、身体技能の向上と豊かな情操の育成を図る。

との喜びを通して、身体技能の向上と豊かな情操の育成を図る。

- ・生徒が毎年楽しみにしている活動の一つであり、昨年度は収穫不良だったことを考慮して、生徒の期待と意欲をふくらませられるような動画配信を行った。

〔取組〕

動画の内容は、畑の紹介やポットの植え、畑の土作りから畑の耕し方等を紹介した(図6)。

〔成果〕

動画配信を行ったことで、農作業の具体的な活動内容について共有ができて、登校後すぐに「畑はイノシシに荒らされていませんか?」と生徒からの質問があった。また、新一年生に対しては、中学部の学習の見通しや期待感を高めることができ、「僕はさつまいもを収穫したいです」と学習への期待感を高めることができた。

(2) 保健体育的活動についての動画配信

〔ねらい〕

- ・コロナ禍における運動不足の解消。
- ・学校生活を思い出したり、学校とのつながりを感じたりする。
- ・新しい担任を知る。

〔取組〕

中学部全職員でラジオ体操やすずめ踊りの実演の動画配信を行った(図7)。腕や足の曲げ伸ばしなどの



図3, 4 身体表現, リズム打ちの動画



図5 劇「おおきなかぶ」動画



図6 農作業の動画



図7 ラジオ体操動画

ポイントの解説を行った。

〔成果〕

動画を見て練習をしていた生徒が多く、体育の授業で実際の練習をした際に、スムーズに運動を行うことができた。

〔3〕音楽的活動「青葉の仲間」の動画配信

〔ねらい〕

- ・ 新入生が、児童生徒会の歌を知る。
- ・ 学校生活のことを思い出したり、学校とのつながりを感じたりする。
- ・ 新しい担任に親しみをもてるようにする。

〔取組〕

中学部職員全員でダンス等を交えながら「青葉の仲間」を歌う様子を撮影した動画を配信した(図8)。歌詞の字幕を付けたり、歌うときのポイントを示したりして、生徒が楽しく視聴したり、一緒に歌って楽しんだりできる工夫をした。

〔成果〕

「テレビの前で歌いました」、「先生たちのダンスがおもしろかった」と話す生徒がいた。学校とのつながりを感じることができの一助となる取組であった。



図8 「青葉の仲間」を歌う動画

〔4〕「新年度を迎えるに当たって」の動画配信

〔ねらい〕

- ・ 新入生は学校や学習の様子を知り、入学への期待感を高める。
- ・ 2,3年生は学校生活を思い出したり、学校とのつながりを感じたりする。

〔取組〕

- ・ 新入生へ向けて、「学校探検」と題して教室や体育館、登校後の流れを紹介した(図9)。
- ・ 作業学習について、作業班と各班での学習内容を

紹介したり、各班の担当教員を発表したりした(図10)。

〔成果〕

動画を見て、生徒の入学式や作業学習に対する期待が高まり、新年度への不安感を和らげ、学校生活に対する意欲を高めることができた。

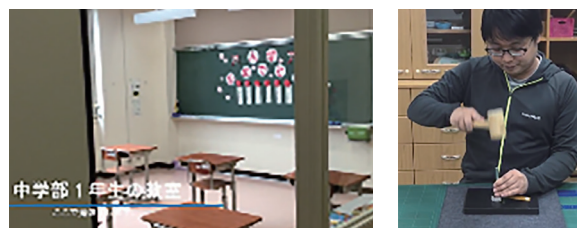


図9, 10 教室の様子や作業学習の内容を知らせる動画

5 高等部の取組

〔1〕コロナ禍の学校生活についての動画配信

〔ねらい〕

- ・ コロナ禍の生活に必要な動作を知る。
- ・ 臨時休業期間明けからスムーズに学校生活をスタートできるようにする。

〔取組〕

登校時の検温方法や手洗いの仕方など、教員が実際にやっている様子を解説付きの動画で配信した(図11)。また、ソーシャルディスタンスをとって生活することを繰り返し説明し、コロナ禍以前の生活とは異なる点を詳しく伝えた。

〔成果〕

教員が実際の動きを見せたことで、臨時休業明けの動きに見通しをもつことができた。学校再開の際には、具体的に言葉と動きで説明したことにより、生徒が感染症対策を意識しながら生活する様子が見られた。



図11 検温の仕方を知らせる動画

(2) 体育的活動についての動画配信

〔ねらい〕

- ・コロナ禍における運動不足を解消する。
- ・楽しく運動に取り組む意欲を高める。

〔取組〕

これまで体育で取り組んできた沖縄伝統芸能であるエイサーのダンス動画を作成し配信した(図12)。振付けのパート練習用、通し練習用と、段階に応じた形で提示した。高等部教員が実際に衣装を着て踊る様子を見せ、ポイントを解説し、自宅でも楽しく踊ることができるよう工夫した。

〔成果〕

家庭で、踊りを見て練習する生徒が一定数いた。動画を見ながら、少しずつ練習していたとの保護者からの報告があった。新入学の1年生の中には、踊りの楽しい様子や教員の明るい雰囲気に関心し、生徒は期待感をもって登校することができた。

(3) 音楽的活動についての動画配信

〔ねらい〕

- ・生徒が校歌や学部の歌に触れ、意欲的に学習に参加する。
- ・学習習慣や生活リズムを整え、スムーズに学校生活に移行できるようにする。
- ・新しい教職員を知り、親しみをもてるようにする。

〔取組〕

学部の教員が協働してダンスや合唱等の動画の作成を行った(図13)。教員による生徒の意欲を高める教材の提示や、歌のポイントとなる場面での生徒に声掛けする内容を精選するなどの工夫をした。

〔成果〕

生徒や保護者にとっては、音楽の動画を通して担任に親しみをもち、学校生活にスムーズに移行できたこ



図12 エイサーの動画

とは大きな安心感につながった。また、この取組を通して、学部の教員同士の連携も図られたとともに、学校再開時には教員と生徒との対話のきっかけとなった。

6 新型コロナウイルスについて知る動画配信

〔ねらい〕

- ・新型コロナウイルスとは何かについて知る。
- ・感染しないために必要な対策について学び、ふだんの生活に生かせるようにする。

〔取組〕

養護教諭が新型コロナウイルスについて、児童生徒が分かりやすい言葉やイラストを用いながら、説明する動画を作成して配信した(図14)。児童生徒に不要な恐怖心を煽らないよう配慮した。

〔成果〕

養護教諭が直に説明をしたことで、児童生徒は予防に気を付けないと病気になるというイメージをもちやすくなった。また、児童生徒の中には、そのために学校が休みであるということを理解できた子供もいた。さらに、学校再開後に手洗いやアルコール消毒を嫌がる児童生徒がいなかった。

7 おうちで学べるリンク集について

〔ねらい〕

- ・インターネット上で活用できるデジタル教材を提供



図13 体を動かしながら音楽を楽しむ動画



図14 新型コロナウイルス感染症についての動画

することで、もっと学びたいというニーズに応える。
 ・余暇的な動画等の紹介を行い、余暇を楽しんで過ごせるようにする。

〔取組〕

文部科学省のホームページで紹介されたリンク集や Web 上で児童生徒の興味関心をひくと考えたデジタル教材を紹介した(図15)。本学が授業目的公衆送信補償金制度の一括契約により、デジタルコンテンツ利用の自由度は増したが、著作権については十分配慮してリンク先を紹介した。

〔成果〕

余暇を持って余していた児童生徒がリンク先の教育動画を視聴していたり、計算等の学習プリントをダウンロードして活用したりしていた。教師にとってはインターネット上の有益なデジタルコンテンツに気付くきっかけになった。



図15 ホームページの画面

8 取組後のアンケート結果から

(1) 保護者アンケートの結果から

令和2年12月に保護者にアンケートを実施した。(回答数n=57人) まず、家庭の情報通信環境について見てみると、ほとんどの家庭では、Wi-Fi等で無制限でデータ通信ができる環境が整っていることがわかった(図16)。

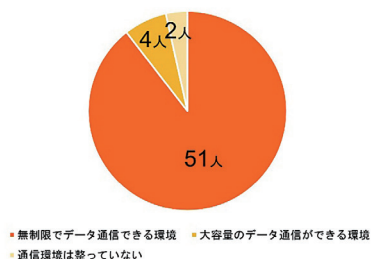


図16 主な家庭での情報通信環境について教えてください。

合わせて、家庭にある情報機器端末についても聞くと、半数以上の家庭でスマートフォンやタブレット端末を所有しており、これらの情報通信機器を活用して、配信動画等を活用していたことがわかる。(図17)

図16,17より今後、新型コロナウイルス感染症が拡大し、再び臨時休業となった場合、オンラインでの授業を行う環境はある程度整っていると考えられるが、教育の機会均等を考えると、家庭で使用できるタブレット端末や Wi-Fi ルーターの貸与ができるようにしておくことも大切であると考えます。

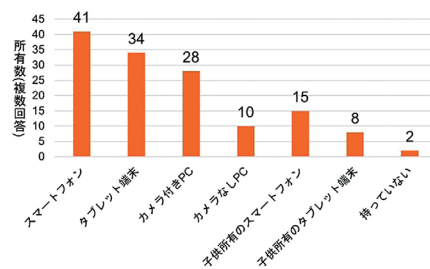


図17 家庭にあるお子様が使える動画等が視聴できる情報機器端末を教えてください

次に「臨時休業中に学校ホームページで配信された動画教材等を見ましたか?」については、ほとんどの家庭が「見た」と回答した(図18)。

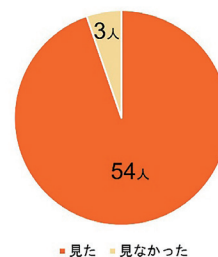


図18 臨時休業中に学校ホームページで配信された動画教材等を見ましたか?

どのような動画が見られたかについてジャンル別に見たと答えた動画の数をのべ数でまとめると、学校の様子を知るための動画や運動に関する動画の視聴数が多かった(図19)。これは、臨時休業期間が年度末年度始めをまたいだことにより、新しい担任が誰であるか、新入生は新しい学校の雰囲気をつかむために動画を見ていたと考えられる。また、運動についての動画の視聴数が多かったことは、家の中で過ごすことが多く、保護者も子供の運動不足を心配していることがう

かがえる。自分の所属する学部以外の動画を見ている家庭も多く、動画を通して、12年間の学びの流れを見通す機会にもなったと考える。

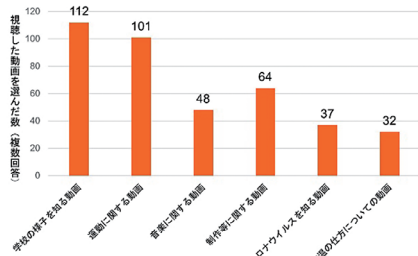


図19 どのような種類の動画を見ましたか？

次に、「ホームページで配信した『おうちで学べるリンク集』をご覧になりましたか？」と聞いたところ、約半数の家庭が「見た」と答えた(図20)。家庭にどのようなリンク先を利用したかについて答えてもらうと、小学部児童の家庭では「絵本や昔話の動画」、「パプリカやダンスを案内する動画」、「体を動かす動画」のリンク紹介の活用があった。中学部、高等部生徒の家庭では、計算や漢字のプリントを印刷できるサイトのリンクの活用があったが、「リンク先は見たが活用はしなかった」という回答もあった。著作権の関係もあり、制約があるなかではあるが、中学部、高等部の生徒たちのニーズに合ったものを紹介できるようにしていくことが今後の課題である。

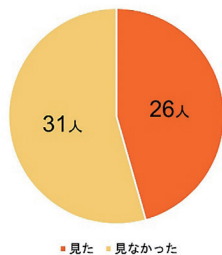


図20 ホームページで配信した「おうちで学べるリンク集」をご覧になりましたか？

(2) 教職員アンケートの結果から

令和2年12月に本校教職員にアンケートを実施した。(回答数n=33人)まず、動画教材の制作について関わった教職員(17人)に制作の負担感について聞いてみると、約7割の教職員が「思ったよりも簡単だった」と答えている(図21)。デジタル機器の扱いに不

慣れなため、動画制作は高い技術が必要ではないかと考えている教職員が多かったが、最近では、動画編集ソフトやアプリケーションで動画の編集が手軽にできるようになってきており、思ったよりも簡単であったという声が聞かれた。

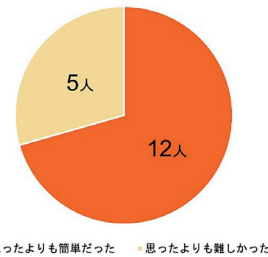


図21 動画教材の制作についての負担感はどうでしたか？

次に、「制作した動画教材が子供たちの学校生活によい効果があったと思うか」と聞いてみると、「効果があった」、「一定の効果があった」を合わせて、9割であった(図22)。その理由を自由記述で聞くと、「多くの保護者から、子供が学校の様子や教員の姿を確認でき、喜んで動画を見ていたことを伝えられたから」、「学校再開後、生徒から『動画で見ました』との報告が多かったから」、「休業期間中、学校の様子を伝えることは生徒、保護者に安心を届けることができたと思うから」、「検温の方法動画は、事前に視聴していただいていたので、いざ学校が始まってもスムーズに対応できたと思うから」といった理由が上がった。動画教材の話題から、児童生徒、家庭と教員とのコミュニケーションを促すきっかけになっており、動画教材の効果を実感する教職員が多かったと考える。

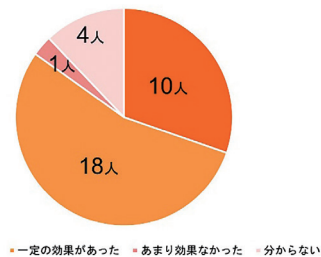


図22 動画教材は効果があったと思うか？

9 成果と課題

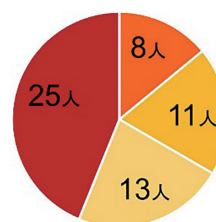
(1) 成果

新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休業という、今まで経験したことのない不安な毎日の中、児童生徒、保護者は動画教材の学校ホームページからの配信を通して、学校や新しい教職員の様子を見ることで安心感と期待感を高めることができた。また、日常生活動作の動画、作業学習の動画、体育や音楽などの学習動画、登校時の検温の仕方についての動画などを見たことによって、学校再開後に児童生徒たちが見通しをもって学校生活を送ることができる要因になったと考える。

教員にとっては、動画の撮影、編集、ホームページへのアップロードの仕方など、ICT機器の活用技能の向上につながった。このことは、with コロナの時代に、当たり前のように対面で授業を行えない状況の中での、新たな指導法の広がりになるとともに、ふだんの授業において、さらにICT機器を活用しながら授業作りを行っていく「GIGAスクール構想」の推進につながるものであると考える。

(2) 課題

今後、オンラインでの学習を考えた場合、「情報通信機器端末を利用してオンライン授業をする際、子供一人で活用できそうか」について保護者に聞いたところ、「子供一人で利用できる」が約1割のみで、ほとんどが、何らかの操作の支援を保護者がしなければならないことがわかった(図23)。このことから、今後、タブレット端末などの情報通信機器の使い方についての指導が重要であることがわかる。また、約4割が操作全般において支援が必要であると答えていることから、保護者などの支援者と一緒に活用する児童生徒が多いことを考えると、知的障害の特別支援学校におけるオンライン授業については、オンデマンドで利用できるデジタルコンテンツの充実も重要であると考えられる。



- 子供一人で情報機器端末を利用できる。
- 操作の手順がわかれば、おおむね子供一人で利用できる。
- ログインなどの支援を家族が行えば、おおむね子供一人で利用できる。
- 操作全般において家族の支援が必要である。

図23 情報通信機器端末を利用してオンライン授業をする際、お子様一人で活用できますか？

10 おわりに

学校再開後、校内での全ての教室に電子黒板の設置、児童生徒用のタブレット端末の配備などICT機器整備が推し進められ、児童生徒がそのような機器に触れる環境が整いつつある。また、貸出用のWi-Fiルーターも準備することができ、家庭でのデジタル・デバインドも解消されることになる。今後は、ICT機器を活用し、教員がどのようなデジタルコンテンツを制作していったり、児童生徒一人一人の実態とニーズに応じた使い方を身に付けさせていったりするかが重要になっていく。さらに研修・研鑽に励み、よりよいものを提供していけるよう努力していきたい。